イスラエル

岩波写真文庫　127

岩波写真文庫 127 イスラエル

編集 岩波書店編集部 岩波映画製作所
写真提供 左近義慈 イスラエル公使館

世界には、現在百に近い独立国があるが、その半数以上は人口も一千万に満たないようないわゆる小国である。人はとかく大きな国にのみ目を向けがちだが、世界の情勢を正しく知ろうとするとき、これらの小国の動向を無視することはできない。また、小さな国には特異な国情を持っているものがすくなくなく、この本でその一端を紹介しようとするイスラエルもその一つといえよう。特に、イスラエルは、さすらいの民といわれたユダヤ人が聖地パレスチナに作った新しい共和国であり、建国に際して起った人種、宗教の問題、大国の利害などにからむアラブ諸國との紛争が世界の関心を集めている。このような意味でパレスチナの新しい息吹きと古い姿を知ることはむだではないだろう。

この本を編集するに当っては、東京神学大学左近義慈教授および、西村関一氏の御協力をいただいた。

目　次

定価100円 1954年10月30日 第1刷発行 1956年11月15日 第2刷発行 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ッ橋2ノ3 株式会社岩波書店

統一王国（ダビデ、ソロモン）時代 （前10世紀頃） I
南北王国時代 （前9世紀頃） II
一王国時代―ユダ王国― （前930～前586） III
ペルシア領時代 （前538～前332） IV
マカベア時代―独立― （前168～前63） V
キリストの時代―ローマ領― （前4～37） VI
十字軍時代―ラテン王国― （1099～1187） VII
トルコ領時代 （1517～1918） VIII
英国委任統治時代 （1923～1948） IX
イスラエル共和国（1948～） X

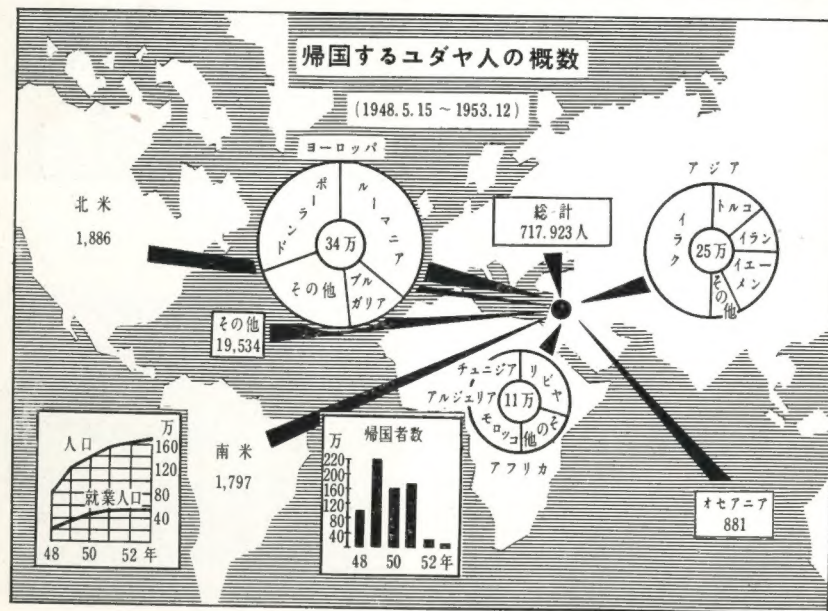
註：現在に到るまでの変遷のうち，主なものを示す．

帰国するユダヤ人

この国を空路おとずれる旅行者は、ルッダ空港からテル・アヴィヴ市までの十数キロの間で、そこに散在するおびただしい数のテント村にまず驚かされるにちがいない。これはイスラエルの建国宣言やユダヤ人帰還法にもとづいて世界の七十四の国々からこの国に移住してくる人々の仮の落つき場所なのである。イスラエルの民族の歴史は移民の歴史といわれるほどで、かつて多くのユダヤ人はエジプトからカナンの地へ、またこの「約束の地」から世界の国々に散っていった。それが、一九四八年のイスラエル共和国の建国とともに、波涛のようにこの国に帰りつつあるのである。独立前、英国の委任統治領であった頃には、パレスチナのユダヤ人は、法律によって七十万人に制限されていた。この制約をとくことが建国の一つの眼目であったのだから、独立後にせきを切ったように帰国するユダヤ人が増えたのは当然であろう。わずか六ヵ年のうちに一二七%の増加率という近代の世界で、その例をみないほど急激な人口増加を示しているのもこのためである。帰国するユダヤ人は、イラク、イエーメンなどからのように部落ごと集団帰国するものも少くなく、イラクからは十二万人、イエーメンからは四万五千人の人たちが既にイスラエルに入国している。その多くは、政府の保護を必要とする人々で、これらのユダヤ人は、北部のガリラヤ地方から南部の紅海沿岸に至る全土に計画的に入植している。アブラハムの物語で名高いネゲブの中心、ベェルシバも、このために人口四千の寒村から短時日に二万の人口を持つ農業都市に発展した。ある旅行者がテル・アヴィヴの市長に市の人口をたずねたら「何月何日の人口ですか」と問いかえされたという。それほど、この国では毎日人口が増加しているのである。このように多くのユダヤ人帰国を決意させるものはなんであろうか。ユダヤ人が他民族から受けた数々の迫害の故もあろう。また、貧しい生活に苦しんでいるものには、なによりも、この国がさしのべる保護を求めるためであろう。しかし、それだけではなく、新しい共和国が世界のユダヤ人にとって帰国をうながす魅力を持っているからにちがいない。

写真はキプロス島の収容所から帰国するユダヤ人

「約束の地」へ帰る

船で帰るユダヤ人はハイファの港から聖書にいう約束の地に入る①がイエーメンなど中近東諸国からの人々は主として空路で集団的に帰ってくる②．これらのユダヤ人は，ほとんどが着のみ着のままで，わずかな手廻品しか持たず，帰国前の生活のきびしさを物語っている．帰国者のなかには働けない老人や，病人，不具者もいるが，これらのものは直ちに公共の施設に収容され，保護を受ける．働けるものは，入国の登録をすませる③と，まずマーバラ(収容場)のテント④に落つき，ここで，身体，経歴や能力に応じて国土建設のどの部門に向くかがきめられて，やや恒久的な収容施設⑤で，それぞれに応じた実務教育が施される．この間この国の新しい国語であり旧約聖書のことばでもあるヒブル語の教育が行われ言語の統一がはかられている．

帰国者を迎える施設

マーバラでの基礎訓練が終ると，やや恒久的な施設に移る．その生活も家庭単位になり，さらに実務につく準備がつづけられる．最近では，建国当初にくらべ，帰国者の受入れ態勢がととのってきたので，テント生活をしないで直接このような帰国者だけの村①④に入り，ここで農耕をしながら，いろいろの訓練をうける場合が多くなったという．これらの施設では「開拓者婦人」とよばれる多くの婦人奉仕者が，帰国者の保育②，医療③，国語教育，生活訓練などに従事している．もちろん，無報酬であるがその生活は，イスラエルの労働組合連合の婦人会議が一切保障をしている．この国では，帰国者受入れは政府ばかりでなく国民全体が協力している大きな運動なのである．

共和国の建国まで

建国宣言（1948年5月）

イスラエルの民族の歴史は、紀元前二〇世紀の頃に彼等の祖先がメソポタミヤから移住してきたことにはじまるという。しかし、ユダヤ人がこの長い間の足どりのなかで、自らの国を持ったのはわずかの期間にすぎず、長い間祖国のない民として異民族の支配する国々にその生活を営んできた。したがって、ユダヤ人といっても、ヨーロッパに住むものと、近東地方に住むものとでは、同じ民族とは思えないほど、風俗、習慣を異にしている。

それでも、ユダヤ人であるが故に世界の人々から特別視され、時には迫害さえ受けてきた。特にナチス政権下のドイツでは、ナチスの民族理論により国外追放を受け、第二次大戦中には虐殺されたものも少くなかった。このようなユダヤ人排斥につき、彼等はそれが排斥するものの無知と不正がもたらすものと考えている。自らを神から選ばれたもっともすぐれた民族とする選民意識からすれば、このような考えは当然で、またすぐれた民族であるがため、他民族から恐れられ、排斥されるのだという考え方も生れてくる。

戦闘中のイスラエル軍（1948年5月）

ユダヤ人が決して凡庸の民族でないことは、彼等のなかから偉大な芸術家や学者が出ていることからも、また世界の財界にユダヤ人が重きをなしていることでもよくわかることである。しかし、逆にこのような考え方や、これに基く排他性が排斥の原因を作っているともいえる。その原因がなんであるかはともかくとしてこのような状態に置かれたユダヤ人、特に貧しい生活をするものに、自らの国をもとうとする意欲が強くなるのは当然であろう。一八八三年にテオドル・ヘルツルが提唱した「シオン(エルサレムの意)

アラブの難民（ヨルダン国アンマン）

へ帰れ」という宗教的な色彩の強いシオン運動が大きな反響をよび、次第に組織的にしかも政治的になっていったのもうなずけることである。第一次大戦の結果トルコの支配から脱して英国の委任統治領になるに際し当時の英外相ロード・バルフォアが、パレスチナにユダヤ人の国を建設することを認めた、いわゆる「バルフォア宣言」も、このようなシオン運動に応えたものである。しかし、もともとパレスチナの地には、アラブ人とユダヤ人が共に住み、宗教、風俗習慣を異にするこの両民族の間には、人種的な確執があったので、第二次大戦後苦慮した国際連合は、この地をアラブ、ユダヤの両国に分割する案を決定した。ところが、これを不満としたアラブ側は、エジプト、シリア、レバノン、ヨルダンのいわゆるアラブ連盟の武力をもって、その実現を阻止しようとした。その後、国連が英国の委任統治の終了を四八年五月十五日にきめるに及んで、シオン運動の指導者たちは、この日を共和国建国の日とし、その前日に建国宣言をした。これに対し、アラブ諸国の軍隊は、三方よりこの国に侵入し、紛争は、パレスチナ戦争と呼ばれる武力抗争の段階にまで発展してしまった。戦闘は、翌四九年に国連の調停によりやっと停戦協定が結ばれるまでつづき、この戦争でイスラエル側は事実上アラブ軍を撃破した。しかし、アラブ諸国は、いまなお、イスラエル共和国を認めようとせず、講和条約もまだ結ばれていない。しかも、戦火をさけてこの国の外に逃れたアラブの難民たちはいまだにみじめなテント生活をつづけ、国際的に大きな問題となり、紛争の最終的解決をいっそう困難にしている。休戦協定による暫定の境界線では、いまも時々両軍の衝突が起り、紛争は人種、宗教戦の色彩さえ帯びている。私たちは、まず、その焦点であるエルサレムからこの国へ入ろう。

年代	事項
前20世紀頃	アブラハム族，メソポタミヤからカナンの地(パレスチナ)へ移住．
前17～16世紀	イスラエルの数部族エジプトへ，移住．
前13世紀頃	イスラエルの数部族エジプトよりモーセに導かれ脱出．
前11世紀末頃	王国を建設，サウルをその王とする．
前10世紀頃	ダビデ，ソロモンが相次いで王となり王国の黄金時代を築く．
前10世紀末頃	南北の二王朝に分裂．
722 B.C.	北朝，アッシリヤに亡ぼさる．
586 B.C.	南朝，バビロニヤに亡ぼさる．
586～538 B.C.	バビロニヤの支配下にある．
538～332 B.C.	ペルシアの支配下にある．
332～63 B.C.	ギリシアの支配下にある．
63 B.C.	ローマ帝国の一州となる．
40 B.C.	ヘロデ，ローマ政府によりユダヤの王となる．
2 B.C.	イエス・キリスト誕生．
66	ローマ，ユダヤ戦争起る．
70	エルサレム，ローマ軍により陥落．
135	叛乱の失敗によりユダヤ人ことごとくエルサレムより追放さる．
395	東ローマ帝国の支配下に移る．
637	エルサレム，回教徒に占領さる．
1099	十字軍，パレスチナにラテン王国を創設す．
1187	ラテン王国，サラディンに亡ぼさる．
1517	トルコの支配下に入る．
1921	第一次大戦の結果，英国の委任統治領となる．
1947. 11. 29	国連総会，パレスチナをユダヤ，アラブの両国ならびにエルサレムの国際管理地域に分割を決定．
1947. 11. 30	エルサレムの商業中心地アラブ側により戦火を受ける．
	アラブ諸国の援助のもとにイスラエル全土へ攻撃が加えらる．
1948. 3	エルサレム，アラブに包囲さる．
1948. 4. 22	ハイファ，ユダヤ人の手に奪還．
1948. 5. 14	パレスチナのユダヤ人及び世界中のシオン運動者の代表37人がテル・アヴィヴに集りエジプト空軍の爆撃下に建国宣言．ベン・グリオン初代総理大臣に選ばる．
1948. 5. 15	ユダヤ人の帰国制限，解除さる．
1948. 7. 11	最初の停戦はじまる．
〃 30	英軍パレスチナよりの引揚完了．
1948. 10. 22	ネゲブで戦火止む．
〃 31	ガリラヤで戦火止む．
1949. 1. 7	アラブ諸国との停戦実現す．
〃 16	ヴァイツマン博士初代大統領となる．
〃 24	エジプトとの休戦協定調印さる．
1949. 3. 23	レバノンとの休戦協定調印さる．
1949. 4. 3	トランスヨルダンとの休戦協定調印さる．
1949. 7. 20	シリアとの休戦協定調印さる．

エルサレムは，城壁によって旧市街と新市街に分けられていて②，ユダヤ人が聖域とする旧市街は今日でもユダヤ人の支配下にはない．わずかに，聖域の南方の丘，シオン山のみがイスラエル共和国に属している．

ユダヤ人の聖地エルサレム回復の悲願はその西側の石垣の一部である「愁嘆の石垣」①に端的にあらわれている．ユダヤ教を信ずるものはここに集って昔をしのび，涙を流すことによって，エルサレムの回復を祈る．

エルサレムへの道

ユダヤ人にとって、パレスチナへの復帰は、エルサレムへ帰ることを意味する。しかも、その道は、遠く苦難にみちたものであった。パレスチナを心のふるさととすることは、現代の多くのユダヤ人に必ずしも受け入れられることではないかも知れない。しかし、かつてウガンダ、キレナイカ、メソポタミヤなどがユダヤ人の建国候補地になったというが、いずれも、パレスチナに代る場所とはなり得なかったことから見ても、いまなお、エルサレムを含むパレスチナへのユダヤ人の願望が失われたとは考えられない。当初、宗教的な運動にすぎなかったシオン運動も、アラブ人との抗争をつづけるうちに次第に政治的色彩を帯び、もはやユダヤ教との関連ばかりでなく、世界中に散在する千二百万にのぼるユダヤ人の民族的、人種的運動と見るべきであろう。したがって、一九四八年のイスラエルの独立は、ユダヤ人にとって、この運動の出発点でもある。エルサレムにおけるユダヤ人の新しい動きを理解するため、私たちは古都エルサレムから見ていこう。

シ　オ　ン　山

1

2

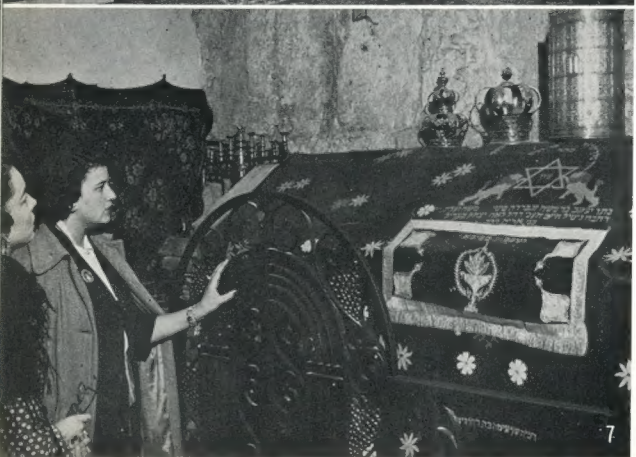
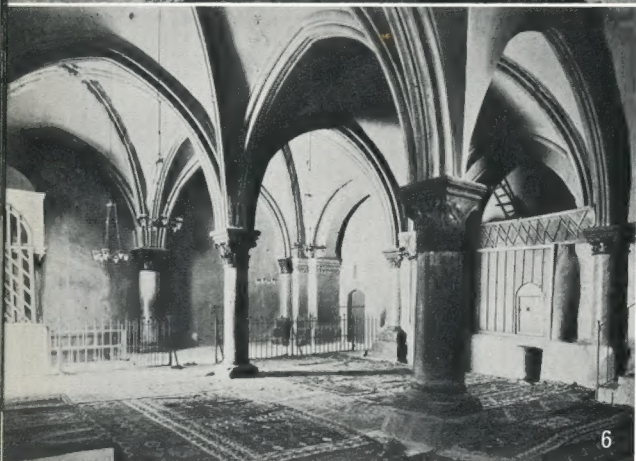
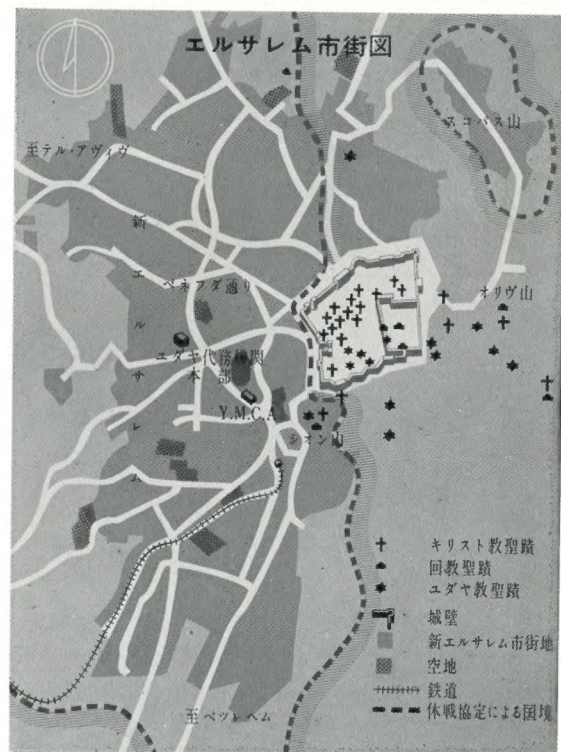
3

シオン山はキリスト教徒にとっても無縁ではない．丘の上にあるドーミション教会①は聖母マリアが永遠の眠りについた場所といわれる伝説を持っている．アラブとの紛争のさかんな頃には，このあたりはその戦闘の最前線であった．教会の内部②③には，聖母マリアの眠れる像が置かれ，ここを訪れるカトリック教徒をよろこばせる．この教会のすぐ南に小さな回教寺院⑤があり，そこには，キリストの「最後の晩餐」やペンテコステ(五旬節)における聖霊降誕の場所と信じられている部屋⑥がある．この部屋は，エルサレムの初代のキリスト教徒たちが，集会した場所でもあるという．

4

5

6

7

ユダヤ人たちは，シオン山の上にあるキリスト教関係の聖蹟には，ほとんどなんの関心も示さない．ユダヤ教徒はイエス・キリストは一人の予言者にすぎないと考えているからである．旧約聖書にいう来るべきキリスト(救世主)は，ユダヤ教を信じる人たちにとってはイエスではない．ユダヤ人が関心のあるのは，同じ回教寺院の北東隅にある，ダビデ王の墓⑦である．この寺院は，現在では，回教徒の所有にぞくしているのでユダヤ教徒にも，キリスト教徒にも，ふつうは解放されていない．入口には，鉄条網まで張られていて，特別の者しか入れないという．④はダビデの墓へ至る廊下．

ユダヤ人がエルサレムのなかでも聖域とするところ④は，伝説によれば，アブラハムがイサクを献げたモリヤの山であり，ソロモンの神殿，第二神殿，キリスト時代のヘロデの神殿のあったところという．いまは巨大な岩②の上に回教の八角円頂の美しい「岩の堂」が立っている⑤．キリストが十字架を負わされてゴルゴダの丘に向ったという「悲しみの道」③は街を縫い，エルサレムの古さを物語る．旧市街を取り巻く現在の城壁は，16世紀に築かれたと伝えられるが，その一部はきわめて古い基礎の上に築かれている．市街はいくつかの門によって城外と通じ，①はその一つのダマスコ門．

聖なる都エルサレム

ユダヤ教徒にとってはもちろんのこと、キリスト教徒にも、また回教徒にとっても、エルサレムは聖なる都である。紀元前千年頃、ダビデはここをその都と定め後に王朝が二つに分裂してからもユダ王国の首府であった。ソロモンはここに神殿を建て、聖書に記されている予言者イザヤ、エレミヤなどの活動した舞台にもなった。神殿は、その後、いく度か破壊と再建をくりかえしたが、ペルシア、ギリシア、ローマの時代を通じ、エルサレムはいつもユダヤ人にとって最も神聖な都であった。ところが、エルサレムはキリストの生涯にも関係が深く、特にその死、復活、昇天の舞台であったので、キリスト教の聖都とされている。さらに、紀元七世紀に回教徒がこの都を占拠し、マホメットがここより昇天したという伝説から、回教の世界においても、メッカ、メジナに次ぐ至聖地になり、一つの都市に三つの宗教の聖蹟が錯綜している。特にエルサレムをめぐっての、回教徒、ユダヤ教徒の対立は根強く、パレスチナの紛争の一つの要因をなしている。

旧市街にはキリストの聖蹟が少なくない．聖墳墓教会①は，そのなかに大小いくつもの御堂を持ち，その一つの堂塔②にはキリストの墓と称するものがある．またエルサレムの東，西，南の三面は天然の要害である谷に囲まれているが，東側の谷であるケデロンの谷を距てて，オリヴ山④がある．ゲッセマネの園は，この山の西斜面にあり，キリストが祈ったという岩の上にゲッセマネ教会⑤がある．この教会のそばにキリストの時代からのものと伝えられるオリーヴの老樹⑥がある．谷へ下る道に，ダビデ王の第３子アブサロムの墓⑦と伝えられるものがあり，キリストの時代にもそびえ立っていたという．③は市街でよくみられる風景で，店先につるされた脂尾羊の肉．

旧市街を望む

旧エルサレムは，現在のところユダヤ人が自由に立入ることができない．アラブとの間が小康を保っているにすぎないからである．境界線はエルサレムの城壁にそってのび，そこには鉄条網が張られ④武装した兵士が見張りに立っている．そこで，ユダヤ人は高いところから古都を見下して，わずかに自らをなぐさめているにすぎない．①はシオン山よりのぞんだ旧市街．同じく南方をのぞむ②荒涼たる野は，「ユダの荒野」を彷彿させる．③は城壁ふきんの国境，右手がダビデの塔．

新しい共和国

新しいイスラエル共和国は、数千メートルの上空から全国土が一望されるほど小さい国であるにもかかわらず、パレスチナの新しい姿を代表するものとして、世界の注目を浴びている。憲法は未だ制定されず、現在は臨時の小憲法により政治が行われている。国民議会は一院制で、百二十名の議員によって運営されている。この国の初代の大統領、ヴァイツマン博士はノーベル化学賞を受けた科学者で、初代の総理大臣ベン・グリオンとともにイスラエルの建設に国民を率いて奮闘した科学者で政治家となった数少い例を残している。ベン・グリオンの属していたマパイ党(イスラエル労働党)が、現在四十五の議席を持って、この国の政治をリードし、これにつぐ議会の勢力分野は、一九五一年の第二回総選挙の結果によると全国シオニスト党二十、マパム党（左翼労働党）十五、宗教諸会派十五、ヘルート自由党八、共産党五、アラブ及びその他の小会派五、進歩党四と小会派分立の傾向が見られ、連立政権により、政治が行われている。

新しいエルサレム

古部エルサレムの西方と北方に建設された新しいエルサレムは，古都とは対照的な近代的な明るさを持つ人口約15万の都会である①⑤. イスラエル共和国の首府として議会③をはじめ政府の主な機関や外国の公館はここにある．独立前，世界中のユダヤ人にとって自らの政府にも等しかったユダヤ代務機関の本部④もここにあって，独立後も活動している．②はYMCAの塔でこの高い塔は，エレベーターでのぼり旧市街を眺める市民でいつも賑わっている.

国境を流れるヨルダン川の源流①は，北方のヘルモン山麓その他３ヵ所に求められる．これらの水が合して樹木の多い山間を下ってフウレ湖に入る辺り②は，海抜69ｍで，さらに下ってガリラヤ湖（海面以下 212 ｍ）③に注ぐ．この湖は霞ヶ浦よりやや小さい美しい湖でヨルダン川は，この南西端より流出し，やがて，海面下 392 ｍの死海に流れこむ．

イスラエルの風土

イスラエル国は、緯度からいえば、四国や九州の南端とほぼ同じあたりに位置し面積は四国よりやや大きいくらいであるが、変化の多い地形によりその気候も種々多様である。一年が雨期、乾期にわかれていて、乾期には水無川となる川が少くない。特に、南部は雨が少く、ネゲブ（乾燥地）とよばれ、不毛の地とされ、これに反し北部には、フウレ湖ふきんの如き湿地もある。最近は、国家の力によるこれらの地域の自然改造が大々的に行われるようになり、イスラエルの自然環境も変りつつあって、ネゲブも次第に人が住むようになり、耕作も行われている。

死海は塩分を25％も含んでいて，生物の棲息をゆるさないが，最近では，ここと地中海を結び，その水位差を利用して，発電をしようという計画が進められている．死海の周辺は，④のように岩の多い丘が起伏していて，この国の中部の沃野⑤とくらべると，狭い国土のなかでも，地域によってその地勢に大きなちがいがあることがよくうかがえる．

ベツレヘム—キリスト誕生の地．ナザレ—生い立ちの地．ヨルダン川—キリスト洗礼の川．カナ—第一の奇蹟が行なわれた場所．カペナウム—ガリラヤ伝道の中心地．エリコ—２人の盲人の目を開いたといわれる地．

キリスト教の聖地

イスラエルは、イエス・キリストの誕生の地であり、伝道の地である。新約聖書の福音書に記されている事柄は、そのほとんどがヨルダン川以西の当時ローマ領であったガリラヤ、サマリヤ、ユダヤの三地方であったことである。キリストの弟子の多くはガリラヤ人で、ガリラヤ湖畔には特に新約聖書にゆかりの地が多い。キリストの生れたベツレヘム②は、エルサレムの南八キロ、海抜七百七十五メー

オリヴ山，タボル山—それぞれ，キリスト昇天の地，変貌の山．チベリヤ，コラジン，ベッサイダ，マグダラ，ベタニヤ，エルサレム—いずれもキリストの伝道にゆかりふかい土地．ヨッパ，カイザリヤ—当時の港．

トルの丘の上にあって、現在のイスラエル国の外になる。そこには、紀元四世紀頃コンスタンチヌス大帝が建てた基礎の上に聖誕教会③がある。世界で最も古い教会の一つであり、また数個の洞穴の上に建っている珍らしい教会である。その洞穴の一つがキリスト誕生の場所と伝えられる。キリストがその三十年にわたる準備の時代をすごしたナザレ①には、キリストの生涯に関連する遺跡が多く、その他、聖書の地としてのイスラエルは、昔をしのぶ古い姿を残している。

ナ　ザ　レ

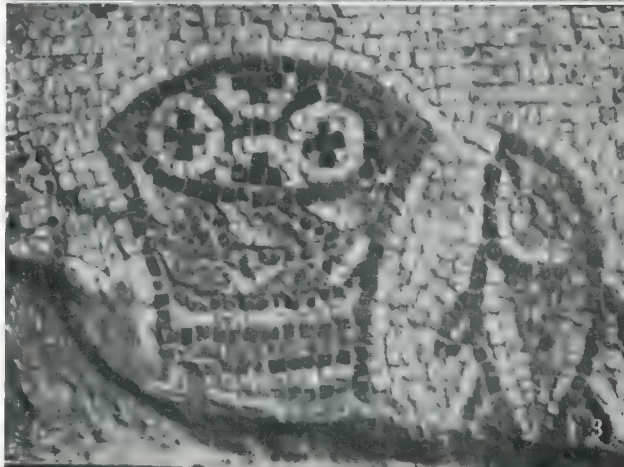
ナザレの町⑤は，エルサレムの北方約100km，ガリラヤ高地の南部になり，エスドラエロン平原の北側の丘の中腹（海抜450m）にある．緑につつまれた静かな町で野花の咲く2月3月の頃は特に美しい．この町にはキリストの生涯に関連のある遺跡が多いが，その大部分は，後代に作られたものである．町の南部にある受胎告知教会①②は，ガブリエル教会ともいわれ，マリアが天使ガブリエルより御告げを受けたところと伝えられ，12世紀に十字軍の建てた教会堂の基礎の上にある．その一部に聖ヨセフ会堂⑥がある．町の北端に「マリアの井戸」という水汲所④があるが，その水源は受胎告知教会の裏手にある泉である．昔からナザレ唯一の泉であるから，マリアもここで水を汲んだであろうしキリストもまたこの水を飲んで生長したにちがいない．

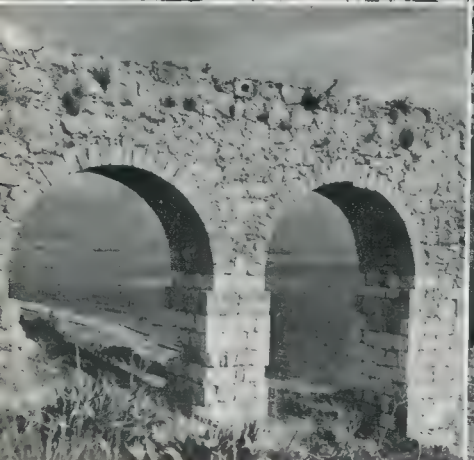
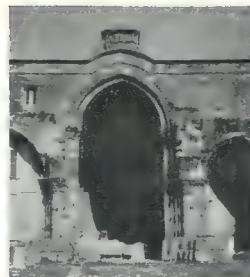
ナザレの町の背面の山頂にのぼると，四方に眺望が開ける．南方には，豊沃なエスドラエロンの平野，その彼方には，サマリヤの山々，東方には，ギレアデの山々，北方には雪を頂いたヘルモンの秀麗な姿やその下方にガリラヤの山々が望まれる．西方には青いハイファの湾やカルメル山，その彼方に地中海を望むことができる．町の東方8kmに，半球のような優美な外観によって著名なタボル山（588m）が見られる．キリストの変貌の山ともいわれて，山頂にはこれを記念して建てた教会堂③がある．廃墟は3，4世紀の頃に建てられ，13世紀ごろ破壊された会堂の址で現在の会堂は近年に建てられたものである．キリストが水をブドウ酒に変えたという最初の奇蹟を行った場所と伝えられるカナは，ナザレの東北にあるが，現在の町の位置とは違っている．

6

ガ リ ラ ヤ 地 方

ガリラヤ地方は，キリスト教ばかりでなく，ユダヤ教にも関係の深い遺跡が多い．ヘロデ王の第二子ヘロデ・アンティパスが建てたチベリヤの町は，紀元70年にエルサレムが滅亡してからはユダヤ教の中心だったところだ．ガリラヤ高地のサフェド①もユダヤ人にとって四つの聖なる町の一つであった．山上の垂訓の山と伝えられる祝福の山②はカペナウムに近い．この附近でキリストは五つのパンと二つの魚で 5,000 人を食べさせたという．湖畔のタブガに近い教会堂の遺跡からはその奇蹟を記念したパンと魚のモザイクの床③が発見されている．⑥は第一の奇蹟を行ったカナ．⑤はチベリヤにあるラビ・メイルの墓とその記念の会堂．④はサフェドの古い会堂の飾り．

3

古 き を 訪 ね て

イスラエルには，比較的新しいローマ時代(紀元前100年～330年)，ビザンチン時代(330年～630年)，アラブ初期(630年～1100年)，十字軍時代(1100年～1200年)の遺跡も少くない．紀元前25年にヘロデ王が建てたカイザリヤには，ローマ時代の建造物の遺物があり，築港の痕跡⑦，神殿の跡⑥，像②などがある．ネゲブ地方にあるスベイタは，ビザンチン時代に栄えたがいまは廃墟となり①，そのなかには教会の遺跡もある．十字軍の砦は，カイザリヤ，アシケロン⑧，アッコ⑤，ナザレの北方6kmのチッポリ③にも残っている．④はチッポリにある十字軍時代の教会堂の址．アッコの近くにはローマ時代の水道橋⑩も見られ，いずれもこの国の成立ちの古さを物語っている．⑨はナザレの西方ベテ・シェアリムにある2世紀頃のユダヤ人の会堂址．

イスラエルにおいては，紀元前10万年頃と推定される「ガリラヤ人」の頭蓋骨や紀元前12,000年頃の「カルメル人」の骨骼が発見されるなど，人間が住んでいた歴史は古い．11,12世紀ごろの十字軍の遺跡などは比較的新しいものとされる．キリストの時代さえ，考古学者が発掘し研究している時代にくらべれば，ずっと新しい時代だ．まるで掘り出された町かのように見える古い町ベェルシバ④には昔のままに人が住み，附近からは，古い時代のものがよく発掘される．⑤はこの近くのビル・アブ・マタル①から出たおよそ6，000年前の骨骼．ペリカンらしい鳥の像③，煖炉或は香炉らしいもの⑥なども発見される．アシケロン②はベェルシバにおとらず古い町で，紀元前11世紀頃はイスラエルの敵ペリシテ人の町であった．パレスチナという名はペリシテの転化したものという．

沙漠への闘い

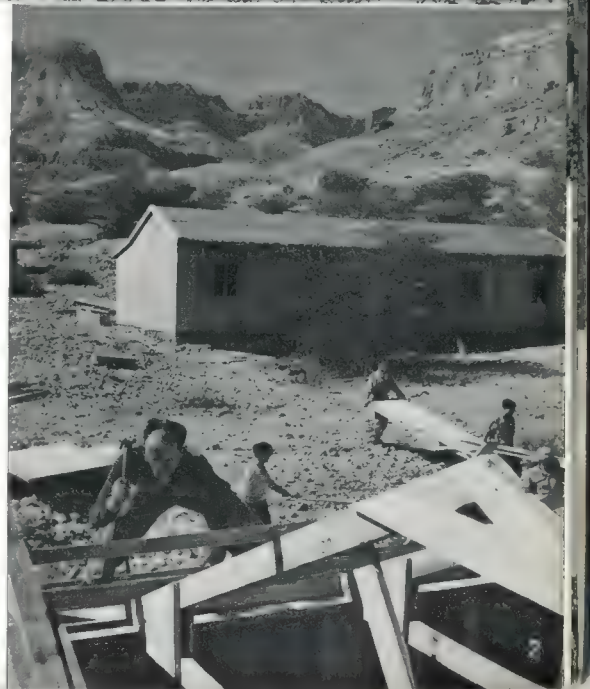
地中海沿いのシャロンの野とガリラヤの南、エスドラエロンの野を除いた大部分の地域はついこの間まで裸の丘陵と石ころの多い荒地であった。イスラエル建国の大きな目標の一つは、世界の各地から帰ってくるおびただしいユダヤ人同胞をいかにして、この荒野に吸収、定着せしめるかということであった。そこで、既に建国の数十年以前からこの国の人々によってはじめられていた沙漠への闘いが建国によりさらに計画的に組織的に推進されるに至ったのである。沙漠への灌漑計画が進められ、ガリラヤ、ユダの山地、ネゲブの開拓が着々となされており、灌漑面積は、建国後の五年以内に二倍以上に拡大されたという。その結果、二百七十六の新しい村が荒野に建設された。これらの村々には、義務徴兵制による男女の兵隊が配属され、アラブ諸国との国境の守りにつきながら開墾と村づくりに従事している。科学の力と人々の努力により「沙漠は喜びてバラの花の如くに咲き輝かん」というイザヤの予言が成就しつつあるのだともいえよう。

沙漠の道路建設

沙漠への闘いは，まず道路の建設からはじめられている．特にネゲブの沙漠地帯を通りベェルシバより死海の南西岸にあるシドムへ至る道路は，2ヵ年の歳月と4,500,000イスラエルポンド（約9億円）を費やして1953年に完成したもので，この道路の開設は，いままで利用価値のほとんどなかった死海を活用することに成功した．すなわち，死海の水を原料とした加里肥料は農村へ送られ，国内の需要を充し得たばかりでなく海外に輸出している．死海は「生命の海」とさえ，呼びかえられるようになった．写真はいずれもシドムへの道路建設当時のもので，この国ではこんな大規模な道路建設がいくつも行われていて帰国者たちの半数以上が建設工事に従事している．

（1イスラエルポンドは約200円）

沙漠への灌漑

道路①の建設とともに，沙漠へ水を送る水管の敷設が併行して進められる④⑤．このパイプは，多くセメント管が使われ，太いものは1.6mもある③，ネゲブへの送水はこのパイプ2本で行われ，水の源はヤーコン川に多く求められている．またところによっては井戸⑧も使われる．ネゲブには古い時代には多くの人が住みついていたといわれ，水さえ得られれば沙漠を緑地にすることも不可能ではない．まず家が建てられ②，石がとりのぞかれ⑥，開墾されると，やがてトラクターが耕す日⑦も遠くない．

開拓に協力する軍隊

イスラエルでは，男女とも満18歳になると兵役に服さなければならない．その期間は男子は3ヵ年間，女子は2ヵ年間であるが，その全期間を兵舎ですごすわけではない．1ヵ年の基礎訓練がすむと，全国の開拓地へ送られ②，沙漠への闘いに協力する．これらの兵士たちは，国境の紛争に気を配りながらも農具を握り⑦，不毛の荒野を緑野に変えていく戦士なのである⑤⑥．もちろん，この間も訓練はつづけられ④，国境の村では見張所①の勤務にもつかなくてはならなぬ．別に緊急の戦火にそなえ正規軍がある．国家予算のうち8.8%が防衛費にさかれているが開発費はそのほぼ倍に上る．

イスラエルの農業は，石ころの多い山地と狭い耕地にもかかわらず，コンバイン②，トラクター④などの機械力と進んだ施設によって支えられている．①は撒水装置．農民の労力は，これにより著しく軽減された．

イスラエルの農村

イスラエルの農村の多くは、特異なキブツ(集合の意)と呼ばれる共産共働の村で二百十七もある。ここでは、一つの会計で村全体の収支がまかなわれ、老人と病人の外は、三度とも一つの食堂でみな同じ食事をとる。完全な共同炊事である。村の子供たちは、満十二歳から親たちのもとを離れて「子供の村」に入り、自治的な生活訓練を受ける。葡萄やオリーブの園、各種の園芸作物の畑の間に、近代的な家畜舎、家禽舎が並んでいて、保育

これらの農業の近代化は，農民の集団化，組織化とともに，政府およびユダヤ代務機関による，経済的な援助や技術指導があずかって大きな力となっている．③はその集団農場の一形態であるキブツの一例である．

所、学校、図書館はいうまでもなく、立派な農業研究所を持っているところさえある。このキブツは第一次大戦前後に発達したもので、ロシヤ革命の影響も受けたが、保護を求める政府を持たなかったユダヤ移民の自衛組織でもあったのだ。第二の種類の村は協同組合村で、総数百九十を数える。この外、富裕な企業化した農業経営者たちの村、中産自作農だけの村、キブツと協同組合村との中間的形の村、新しい移民の一時的な村などがある。それに、昔ながらの原始的な農業を営むアラブ人の村が百一ヵ村ある。

イスラエルの農業

昔ながらの山羊と羊の放牧⑥は，いまもガリラヤ地方に主として見られ，さかんに行われている．オレンジや聖書によくでてくるオリーヴ，亜麻⑧などが，現在でもさかんである．特にオレンジはヨーロッパにおけるカリフォルニヤたらんとしているほどでこの国の主な輸出品の一つに数えられている．果樹などの優秀な苗は，国営の苗圃②で育てられて，各農場へ送られる．新しく興ったものとしてはタバコ①も近年さかんになってきた．これら農業に必要な化学肥料は，加里，燐酸，石灰などすべて国内で自給自足されている②．④⑤は，それぞれ，ロンドン，チェコスロバキヤから帰ってきた婦人で，帰国者のうち，農村にはいる人たちは30%ちかくにも上っている．

主要農作物生産高

1950年		1953年
627万箱	甘橘類	897万箱
3.3億箇	鶏卵	3.7億箇
1300万立	山羊乳	2100万立
0.93億立	牛乳	1.28億立
1.335万屯	果実(雑)	2.2万屯
0.38万屯	オリーヴ	1.35万屯
1.69万屯	ブドウ	2.2万屯
12.5万屯	野菜	20.5万屯
3.5万屯	馬鈴薯	5.5万屯
0.15万屯	タバコ	0.18万屯
0.425万屯	油用種子	0.9万屯
0.23万屯	豆類	0.37万屯
3.83万屯	裸麦燕麦	6.6万屯
2.7万屯	小麦	2.95万屯

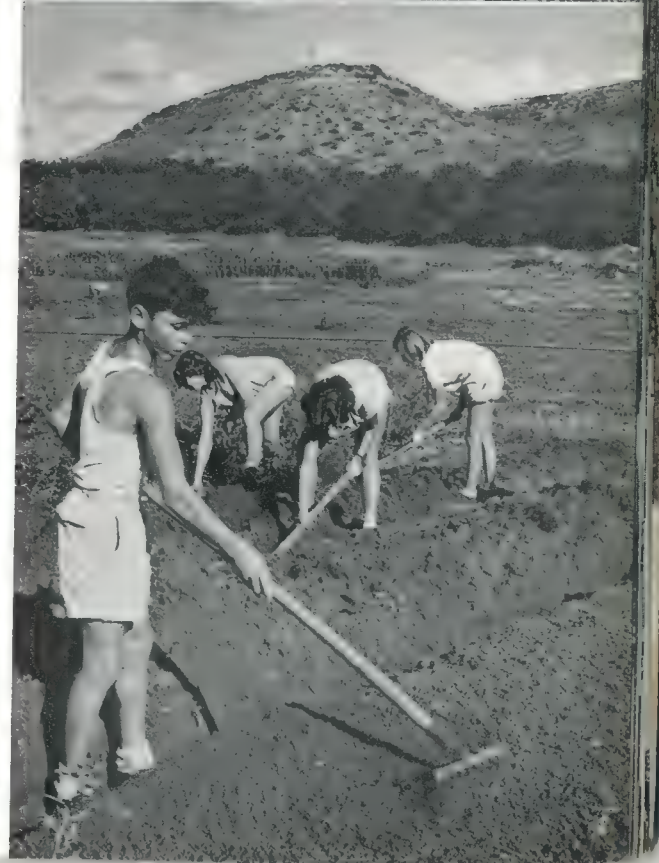
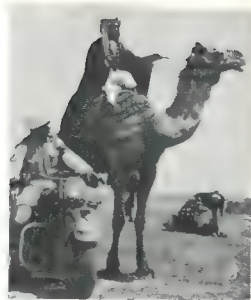
キブツの生活

キブツにおける農民たちの生活は，明るく健康的だ①．集団の組織とその力とにより多角的な農業経営がいとなまれ，牧畜④も家禽の飼育⑤も，もっとも進んだ管理のもとに行なわれている．キブツの人々は，いつも集って食事を共にし②，その時間を楽しむ．多くの人々のなかには，このようなキブツの生活になじめず，離れていく人もあるというがそれにしても，このような集団生活の力が，かつて英人技術者さえさじを投げたという荒野を，見事な農場にし得たのであろう．農村とはいえ，木工場もあれば簡単な農機具の工場もある．キブツは，80世帯ぐらいの小さなものから1,000世帯ぐらいを持つ大きなものまである．③はキブツの保育所．写真はいずれもキブツ，ギバト・ブレネルのもの．

子　供　の　村

キブツの子供たち①は，満12歳から18歳まで，キブツに附設してある子供の村へ入って寝食を共にし，学校③へもここから通う．自治的な共同生活の訓練をここで受けて，苗作り④もすれば，農耕にも従事する②．牛乳運搬は子供の村の分担というようにその作業がきめられている．子供の村は子供たちの自治によって運営されるのであるが，その指導や補助としてキブツを運営している委員のなかから一人がここに派遣される．

老　人　の　家

子供の村と対照的なのは老人ホームである．生活にハンディキャップを持つ帰国者のためのマルベンと呼ばれる社会事業団体が作っているもので，働けない老齢者を収容する．もちろん無料で，ここも老人たちだけの自主的な運営に任されている．絵筆に親しむ老人⑤や刺繍を楽しむ老婆⑥はいずれも老いてから帰国した人たちである．ここでもヒブル語が教授され⑦，各種の内職をする人⑧もサロンに集る人⑨も表情は明るい．

アラブの村

イスラエルの農村を見るとき，見逃すことのできないのは，人口において10%を占めるアラブ人の作っている村②⑥である．アラブ人のなかでも，村を形づくらず放浪して歩くベドウィンのキャンプ①では，相変らずラクダを使った原始的な農耕④を行っている．ベドウィンの概数は14万人といわれ，その生活の程度は低い．新しい共和国はアラブ人に対し，教育，社会福祉，技術指導などの各面において相当な努力を払っている③⑤．しかしアラブ人のなかには，まだ充分にこの国に対してなじめないものがいるようだ．紛争のさなかに国外に逃れ出た約80万にのぼるアラブ人はいまなお多くテント生活をしていて，国際的な大きな未解決な問題として残されている．

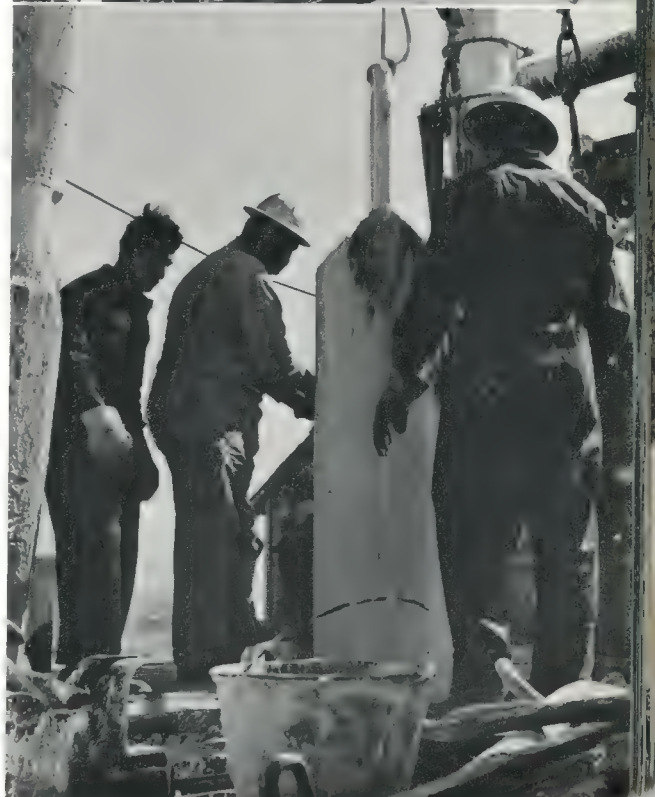
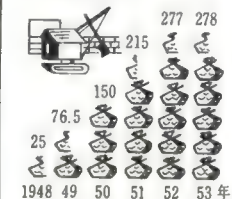
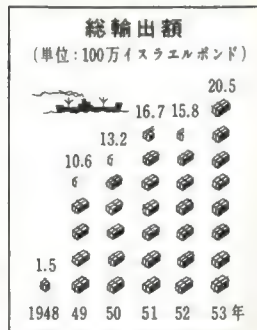
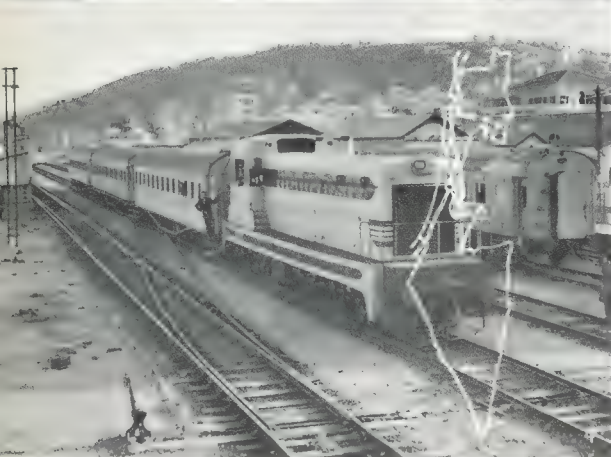
近代化への道

イスラエルが近代国家としての発展を目指すかぎり、他の多くの国と同じように当然、高い工業力が必要とされる。ところが、この国が独立当時持っていた工業力は、どちらかといえば貧弱で、特に重工業の面ではほとんど見るべきものがなかった。そこで、この国の政府は、農業開発とともに、工業の振興にもその努力を傾けている。近代工業に欠くことのできない資本については、世界のユダヤ資本を背景とする国だけにその多くは外資に求めているようである。国内資本であると外国資本であるとを問わず、新しい事業に対する投資は、すべて国の機関によって調節され、開発へ集中される。これは法律によって定められているもので個人の投資者は開発への協力者としていろいろな特典を受けるのである。一九五〇年から三ヵ年の間に公認されたこの種の企業は、七百十二を数え、五千六百万ドルおよび三千四百七十万イスラエルポンドがこれに投資されている。このうち約二千八百万ドルおよび一千万イスラエルポンドはアメリカからのものである。

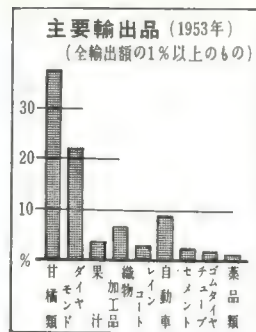
工　　業

イスラエルの工業は，小規模の企業によるものが少くなく，どちらかというと軽工業が主である．オレンジの加工は，この国の特産で箱詰工場①も近代的設備をもっている．柑橘類に次ぐものはダイヤモンドの研磨工業で，世界的にも著名である．この外に，製糸，織物④⑤，タバコ③，薬品類など，いずれも国内需要をみたすだけでなく輸出もされる．農作物のうち，亜麻②も最近加工されはじめた．

建国以来，この国は鉱業にも力をそそいできているが鉱物資源としての死海の水は貴重なもので，これには塩化カリ20億トン，臭化マグネシウム10億トン，塩110億トン，塩化マグネシウム220億トン，塩化カルシウム60億トンが，秘められていると推定されている．①は死海沿岸のシドムに作られた塩化カリ工場．この外，主としてネゲブには銅60〜100万トン，鉄20万トンが埋蔵され，100万トンのガラス用の砂が保有されると考えられている．石油も全土の3/4の地域に有望といわれ，石油法が作られて外資を求めるいっぽう試掘がさかんに行われている②．

セメント工業もなかなかさかんで，その生産高も1948年に16万トン，52年に45万トンと約3倍にはね上っている．⑤は建設中のセメント工場．この国の大工場にはほとんど外資が入り，ハイファのカイザー自動車の組立工場⑥でできる車は輸出もされる．⑦は製紙工場，製紙もこの国の主要な工業．この外，義歯，鉛筆などが作られ欧州へ出される．これらの工場で働く労働者③④の数も工業の発達に伴い1948年の6万から52年の13万と増加し，全就業者の23%を占める．労働組合はよく発達していて，そのほとんどが労働組合に入っており全国的に統一されている．

交　　通

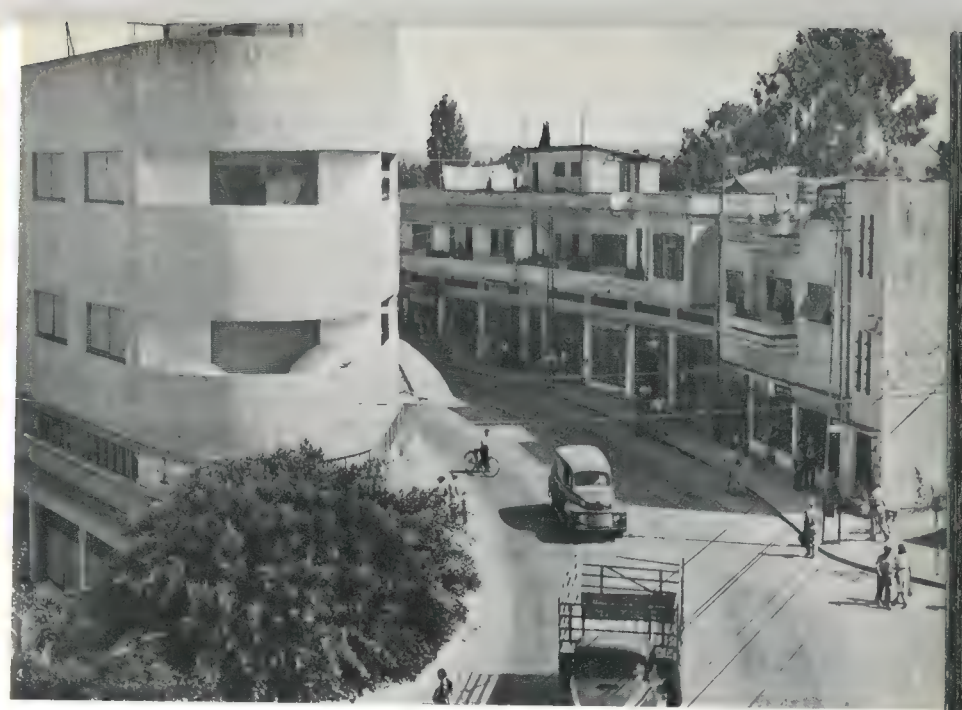
交通のうち最も重要な部分を占めているのは自動車によるものである．したがって国内の主要道路は殆んどが舗装され，大型バスが縦横に走っている．道路の延長距離も1948年に1,884kmであったものが，52年には2,200kmに延び，新しい道路の完成は，この国の産業の開発に大きく役だっている．これに反し，電車はどこにもなく，鉄道もごく主要な地点しか結んでいない．鉄道は客車の等級がなくて誰でも同じ車にのる．1953年に完成したハイファ，テル・アヴィヴ間の新線には新鋭のディーゼルカーが走っている．航空路も国内線はあまり発達していないがアジア，ヨーロッパ，アフリカを結ぶ要地なので，国外線は，よく発達している．海運も建国当時の船舶保有量5,000トンが53年には20万トン近くにもなっている．

主要輸出品（1953年）
（全輸出額の1％以上のもの）

貿　　易

この国の国家予算の歳入面は30％以上も見返り資金に依存しているので，ぜひとも外国貿易の振興をはかりたいところだろうが，1953年の結果は入超で同年の輸入総額約1億イスラエルポンドに対し輸出額は2,000万イスラエルポンド程度で約8,000万イスラエルポンドが赤字になっている．しかし国をあげて開発に努力し，年々輸出額は増加して輸入額は反対に減少しているので，入超額は1953年には52年の15％減，51年の33％減となっている．しかも，総輸出額のうち工業製品の占める割合も，49年に41％，51年に64％と増加し明るい見透しを与えている．これらの輸出は，イスラエルの唯一の近代的港であるハイファから，トルコ，フィンランド，イギリス，アメリカなどの国を主要相手国として積み出されていく

①～⑤はいずれもペタ・ティカの街．周囲には年間50万箱を収穫する3,000エーカーのオレンジ畑があり，この国の柑橘類の中心地．ここで彼等の祖先は畑を耕し，夜は銃で外敵に備えつつ発展の基礎をきずいた．

イスラエルの都市

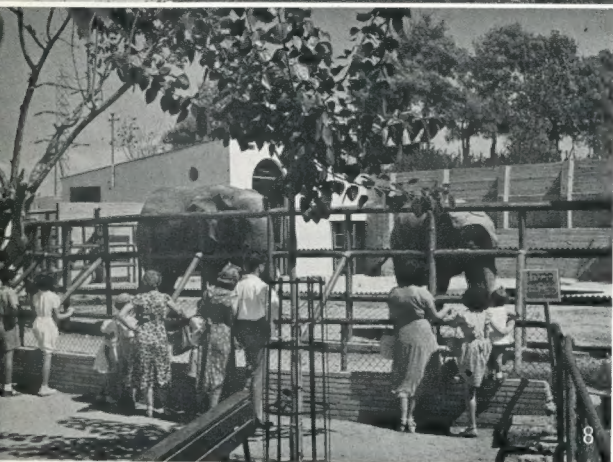
イスラエルには、ナザレ、チベリヤなどといった古い歴史を持つ町が少くない。しかし、これらの多くは小規模な集落で都市として数えられるのは、わずかにテル・アヴィヴ（人口約三十五万）、新エルサレム（人口約十五万）、ハイファ（人口約十五万）、ペタ・ティカ（人口約四万）ぐらいしかない。テル・アヴィヴはアメリカにおけるニューヨークのような存在で、政治都市、新エルサレムとは異った性格

この町の発展に経済的援助をしたロスチャイルド男爵を記念した小公園③や，開拓者たちがはじめて建てたユダヤ教の会堂④など，ペタ・ティカには初期のキブツの生活を伝える記念物や物語が多く残されている．

をもつ。また、ハイファは港町、ペタ・ティカは農業、軽工業を中心に発達した都市といったように、いずれもそれぞれちがった特長をもち、この国の都市を代表しているといえよう。なかでもペタ・ティカは、もっともイスラエル的な雰囲気をもつ町で、この町の発展のあとは、そのままパレスチナの変貌をあらわしている。すなわち、一八七八年に作られた最初のキブツがもとになって出来上ってきた地方都市で、イスラエル建国の先駆者たちをしのぶには格好なところである。

40年の歴史しかない近代都市テル・アヴィヴ

旧約聖書のヨナの物語で名高いヨッパの港町の北方に新しく建てられたテル・アヴィヴは，近々40年のうちにこの国最大の近代都市となった．第一次大戦後の帰国者によって作られた街で美しい曲線と直線で形作られている①②③．増加する市民のためにアパートがどんどん建てられ④，住宅地は北へのびている⑤．⑥は市の中心地に当るロスチャイルドビルの附近．テル・アヴィヴには花屋，玩具屋，本屋が目だっておおく旅行者がびっくりするぐらいだ．

市民の生活

イスラエルの市民の文化生活の程度を示す一つとして教育機関をあげることができる．①はエルサレムにあるハイスクール，②はこの国唯一の綜合大学であるヒブル大学の教室．学生が多く，立っているものもいる．エルサレムにあるこの大学は，夫婦の学生のためのアパート④もある外，欧米の大学に劣らない施設を持っている．この外にイスラエルには三つの単科大学があり教育には力を注いでいる．

外国人が奇異に思うのは金曜日の日没からはじまる安息日である．昔ながらの服装をしたラビ（ユダヤ教の教師）が馬車にのって安息日のきたことを告げると⑤街は，急にひっそりとする．これから土曜日の日没まで商店も閉じ，映画館も休みになって人々はくつろぐ⑦⑧⑨．この日にはイーストの入っていない種なしのパン③を食べるのが習慣である．イスラエルの市民は花を好みテル・アヴィヴの近郊で作られる花⑥は遠くパリにまで輸出されるという．

正誤

本書の三十一頁の説明文と三十四頁の説明文が、印刷所の手違いのため、入れ違いになってしまいました。深くお詫び申し上げると同時に、御寛容のほどお願い申し上げます。

今日もまた新しい帰国者が帰ってくる。これらの同胞を如何に受入れるかが新しい共和国の当面する大きな試練の一つだ。

イスラエル 27

旧エルサレムをのぞむ

¥ 100